

○繁殖牝馬の余生

遠野で生まれ、セリには出場せずに繁殖牝馬となり、遠野の馬産に貢献してきた彼女たちも、20歳を過ぎれば引退です。今号では繁殖生活を引退した後、静岡県掛川市で余生を過ごすことになった牝馬たちをご紹介します。



時々一緒に放牧されるスラートマリー(左)とヴィクト・アール5(右)

○新たな生活

スラートマリー(牝20 父フリーデンスラート 母スタークイン)とヴィクト・アール5(牝21 父フロドラジェルベーズ 母ゾネ)は、遠野の生産者が長年慈しんできた大切な牝馬たち。その産駒は全日本馬術大会で優勝する活躍をしています。そんな彼女たちも高齢になり、まずスラートマリーが繁殖生活にピリオドを打つことになりました。ちょうどその時、静岡県御前崎市の乗馬クラブの会員で、馬と共に暮らすことを夢見ていたという井本美幸さんからの申し出があり、スラートマリーは井本さんが住む掛川市へと移動します。それからほどなくヴィクト・アールも繁殖を引退、偶然にも井本さん宅のすぐ近くに住む同じ乗馬クラブの会員、寺岡千晶さんに引き取られることになりました。



スラートマリーと井本美幸さん



同じ乗馬クラブ会員の川端明日香さんも一緒に



ヴィクト・アールと寺岡千晶さん



井本さんと散歩を楽しむスラートマリー

井本さんや寺岡さんによれば、繁殖牝馬だったスラートマリーやヴィクト・アールは、人に従順で大人しく、とても扱いやすいといえます。馬もまた、繁殖生活を送っていた時とは違う表情で新しいオーナーさんに甘えます。スラートマリーとヴィ



乗用馬としても優秀だというヴィクト・アール

クト・アールは、長年暮らした故郷遠野を離れ、元気に生き生きと、新たな馬生を送っています。